

2026年3月期 第3四半期決算説明会 主な質疑応答

日時：2026年1月29日（木） 17時30分～18時30分

Q：時計事業好調の要因はなにか

A：G-SHOCK、CASIO WATCH 両方とも好調だった。

CASIO WATCH については、特定地域というよりもグローバルに伸びている。G-SHOCK も既存定番モデルへの販促を集中して若者層の支持を再獲得し、さらに年末にかけて新製品が寄与した形で堅調に推移した。市場のトレンドをとらえたマーケティングがうまくいき増収となったと認識している。

Q：時計の営業利益率が19%でこれまでに比べるとかなり高い水準になっているが、どういった背景か

A：3Q については季節要因による売上の増加に伴い、営業利益率は高くなる傾向にある。更に G-SHOCK が回復基調にあり、その高い粗利率が営業利益に貢献していること、また CASIO WATCH の粗利率は G-SHOCK よりも低いものの、値上げ等よりその差は縮小しており、更に販促費等が低いいため売上高増加に伴う限界利益上昇が営業利益に効いてくる。これらが相まって19%超の利益率となった。

Q：電子辞書とサウンドの今後の見通しについて

A：電子辞書は収束過程の中で生じている赤字であり、想定通りの形で進んでいる。

サウンドは、構造改革を進めるとともに、今後の戦略について検討しており、改めて次期中期経営計画にて今後ご説明したいと考えている。

Q：今回、戦略投資枠 250 億円のうち 50 億円を株主還元に充当するということだが、残りの進捗は

A：戦略投資額 250 億円については、使わない場合は株主還元を検討するという形でご説明している。その中で進捗度合いから見て 50 億円につき、今回自己株取得という形で株主還元を充当した。残り等については、次期中期経営計画を策定する中で、再検討の上、改めてご説明したい。

Q：これまでは資金の使用用途について割と慎重な姿勢を貫いていて、それが今の安定感のあるカシオに繋がっていると思うが、その考え方自体を変える可能性はあるか

A：今までも決して慎重だったわけではなく新規事業も結構投資してきており、時計のイベントで SHOCK THE WORLD という大規模投資もやってきた。M&A に関しては PMI を重

視しており、数年後にきちんと結果が出るように案件を精査していくことが重要だと思っている。当然既存事業の周辺を中心とした M&A、或いはその他投資については、成長に合わせてしっかりと取り組んでいきたい。

Q：今期の ROIC は 6%ということになっていると思うが、現状の目標財務指標について教えていただきたい

A:目標財務指標だが、まずは早期に ROE8%を超えることにこだわっていきたい。その上で 10%を目指していきたいと思っている。